

# 令和4年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年1月20日

法人名

園名

学校法人

幼保連携型認定こども園 ふじみ幼稚園

まとめ

全体平均

4.67

第2章第2節 乳児期の園児の保育	・週1回の散歩、乳児だけの誕生会など温かく落ち着いた雰囲気の中で生活できている。・1～2歳児からいい影響を受けていると思う。少ない人数での縦割りとなる預かり保育で、幼児から挨拶、座り方、ブロックの使い方等影響を受け、真似をしている。・言葉が出るようになり手が出なくなったけど、まだ自分の思いをおさえられないところもある。・保護者との関わりを増やしたい。家族の様子を知り、共有しながら進めたい。子育てのたいへんさ、関わりの大切さ、喜びも感じて欲しい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	先生の関わりがとても大事。危機管理、基本姿勢等気づけるかどうかは先生の質、保育の質につながると思う。先生の姿が子どもたちの見本となり、育ちに関わっている。時間のゆとり、心のゆとりを大切にしたい。子どものことばに耳を傾けないと子どもの気持ちには寄り添えないので、忘れずに心がけていく。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	・乳児と幼児の境目でもあるれんげ(2歳)のポジションは上にも下にも影響があるので、大切。れんげの子の関わり方で影響の大きさが変わる。・ことばのきれいさ『ありがとう』を増やしたい 子どもらしい表現を増やしたい・友達との関わりが少ない・家庭でやってもらっているのか他人任せなところがあり、自分でやってみようという気持ちが見られない子がいる。自分でできることが嬉しい、楽しいという気持ちが育ち、成功体験を増やすことで意欲につなげていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	同じ学年だけのつながりではなく、他学年や、栄養士、かかりつけ医等いろんな方と連携ができてきている。自分だけの見方で固まらず、他保育士や専門家などいろんな方の意見を取り入れることが子ども理解にもつながっている。家庭環境も国籍も幅広くなくてコミュニケーションがむずかしくなってきたが、共に手を取り合って子育てができるよう、試行錯誤しながらコミュニケーションをとっていったらと思う。
第3章 健康及び安全	・B型肝炎 転んだ傷→出血を伴う伴わないに関わらず、感染の可能性がある。使い捨て手袋を使用したほうがいい ・お互いを守るために予防接種を受ける ・マスク 布とプラスチックを上手く使い分けて守る。安全を考慮しながらすればいい ・一人一人が高く意識をもって取り組んでいる。でも時には専門家の意見も必要だと思う ・一人一人が(先生も子どもも)『自分の身を守る』行動を意識する
第4章 子育ての支援	・在園生の保護者には個別に丁寧に対応しているとは思っているが、思いが一緒とは限らない場合がある。一緒の方向を向いていくまでに時間がかかる ・地域の未就園児との接点は限られてしまっているが、子どもの育ちや親の様子など入園する前に気付き、つなげられたらと思う。
第5章 職員の資質向上	・一人ひとりが保育者として自覚を持ち、また園の一員として役割を持って仕事をしている。各々の立場で話し合いの場を設け、気付きや反省など伝えあい、考えるようにしている。・経験のある先生も今の現状に満足せず、常に次に考えることができるので、行事や作品展など内容が毎年変わりマンネリ化しない。とてもいい点だと感じているので、その体制はこれからも続けていきたい。
総合	痛ましい事件などいろんなニュースが流れ、たいへんな一年だったと思うが、自園の保育や対策を見直す機会として真摯に受け止め園も職員も頑張っていた。少しずつ園行事も元どおりになってきているので、保護者の方も我が子の姿を直接見ることで安心できたのではないかな。クラスで話し会ったり、なわとびなど努力する姿を見ると、やはりコミュニケーションは大切であり、のびのび育っている姿を微笑ましく思う。園と家庭との姿にずれがあったり、保護者と温度差を感じるころは、話し合いを重ね、連携して行って欲しい。また、今回、作品展で園のあゆみを紹介していたが、知らない方も多いのでは。古き良き時代を知り、振り返ることも大切。子どもは地域の宝でもあるので、これからも大切に育てて行って欲しい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.80
「3歳未満児保育」	32	4.75
「3歳以上児保育」	53	4.49
「教育保育の配慮事項」	16	4.75
「健康・安全」	29	4.79
「子育ての支援」	18	4.56
「職員の資質向上」	9	5.00
計	172	4.67

データグラフ

